

2012年2月13日

第29回日本医学会総会
会頭 井村 裕夫 様



「戦争と医の倫理」の検証を進める会

代表世話人 赤羽根 巖
代表世話人 西山 勝夫
代表世話人 石川 徹
事務局長 住江 憲勇

第29回医学会総会の企画に関する要請

貴職のご活躍に敬意を表します。

私たちは、2007年4月に大阪で開催された第27回医学会総会が、「15年戦争」終結後60年の節目ともいえる時期に開催されることから、戦前・戦後の日本医学界の歩み、特に「戦争」との関連での歩みを振り返るよい機会と考え、私たちの企画を医学会総会の公式プログラムの中に組み込んでいただけるよう、同総会の岸本忠三会頭及び武田裕企画展示委員会委員長に要請を行いました。

しかしながら、医学会総会としての公式な企画には至らず、関連業者の展示スペースの間に僅かな小間を賃借して、作成した120枚余のパネルを大型モニターで表示するに止まりました。

私たちは、独自に同総会に並行して、かつての「15年戦争」と日本の医学界の関わりなどを検証するパネルを展示し、アメリカ、中国からシンポジストを招き、「戦争と医学」の国際シンポジウムを取り組みました。

その反響は少なくなく、各種メディアにも紹介され、一定の成果を収めることができました。その後、私たちは、作成したパネルと国際シンポジウムの内容を、医療関係者をはじめ多くの人々に知っていただき、また活用していただくことを展望して、冊子およびブックレットとして出版しました。

2011年に東京で開催されることになっていました第28回日本医学会総会に際して、私たちは、今度こそ「15年戦争」と日本の医学・医療のかかわりの検証を、日本医学会総会として公式の企画に設けていただくことを要請しました。しかし要請は受け入れられませんでした。さらに3月11日の東日本大震災、原発災害の発生のために日本医学会総

会、それに並行して企画した独自の国際シンポジウムと展示は開催されませんでした。

次回第 29 回の日本医学会総会は 3 年後の 2015 年に京都で開催されますが、私たちは、「15 年戦争」と日本の医学・医療のかかわりの検証を、日本医学会総会としての公式の企画に今度こそ設けていただくことを貴職に要請いたします。

今日、医学・医療の歩みは著しく、ますます医学者・医師に高い倫理観が求められています。これに応えるためには、私たちが医学医療のこれまでの歩みを真摯に振り返ることが重要な課題の一つです。

なかでも、日本の医学医療が進歩・近代化し始めた昭和の初期、「15 年戦争期」及びそれに続く「戦後期」の医の倫理にかかわる反省は欠かせません。「15 年戦争」中の 731 部隊にかかわる問題（以下、「731 部隊問題」）に関しては、当時の資料の焼却、逸散と残された資料の「未公開」「隠蔽」のために、その全貌は未だに明らかではありません。当時、日本を占領した「GHQ」は、この問題に関連した多くの医学者、医師（軍医を含む）を訊問しながら、戦争犯罪、医の倫理については不問にしました。

このような経緯のなかで、日本の医学会・医師会では「731 部隊問題の真相は不明」「731 部隊問題は解決済み」あるいは「タブー」とされ、731 部隊問題等について真摯に向き合い、教訓を得る取り組みはこの 60 年間ほぼ皆無でした。

1951 年、日本医師会が世界医師会に加盟するにあたり、「日本の医師を代表する日本医師会は此の機会に、戦時中に敵国人に対して行なった暴行を非難し、又行われたと主張され、そして時として生じたことが衆知とされる患者の残虐行為をとがむ」と声明しました。これは、この種の問題に組織として言及した唯一のものですが、日本の医学者・医師の戦争中の行為を真摯に反省し、その教訓から今後の医学医療・医の倫理のあり方を示したものとはいえません。

一方、日本とは対照的に、戦時中日本の同盟国であったドイツでは、ベルリン医師会が 1988 年に「・・・ナチズムの中で医師層が果たした役割と、忘れることが出来ない犠牲者の苦しみを思い起こす・・・ベルリン医師会はその過去の重荷を負う。我々は悲しみと恥を感じている・・・」と声明し、「過去の克服」が、医学・医療の領域でも進められてきました。

さらに精神医学精神療法神経学会(DGPPN)は、2010 年 11 月のベルリンにおける年次総会の中で、ナチス時代にドイツ精神医学の名において行った「強制移住」、「強制断種」、「安楽死」などの犠牲者をしのぶ追悼式典を開催しました。そして自らの先行組織やドイツの精神科医が与えた不正と苦しみについて犠牲者およびその家族に謝罪しました。またその後今日まで、あまりに長くつづいた学会の沈黙、些少化、抑圧に対しても謝罪しました。約 70 年を経ての学会としてはじめての罪の確認と謝罪が行われました。引き

続き DGPPN では調査と討論が進められています。

「過去に目を閉ざすものは、現在さえも見えなくなります」という歴史の教訓に学び、私たちがかつての戦争と医学・医療の関係、特に戦争中における医学者・医師の残虐行為等の史実を明らかにし、史実を基に議論を開始することは、医の倫理の確立や明日の医学界のために不可欠ではないでしょうか。

貴職が準備委員長を務められた第 23 回日本医学会総会（京都、1991 年）においては、総合医学展示の一環として医学史展示が中川米造滋賀医科大学教授を委員長にして開催され、「731 部隊問題」に関する展示も行われました。貴職として、この歴史を引き継ぎ、時代の要請を汲み取っていただき、第 29 回日本医学会総会でこの問題について討議検討し、同総会としての考え、態度を表明する企画をしていただくようお願いします。

以上のことに関し、懇談の機会をいただければ幸甚に存じます。ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、先生のご都合などを同封の返信用封筒（あるいは、下記のメールアドレス宛）でお知らせいただければ幸いです。

<添付資料>

1. 『戦争と医の倫理』の検証を進める会』の資料

- (1) 設立趣意書
- (2) 世話人会名簿

2. 当会の前身である「第 27 回日本医学会総会出展『戦争と医学』展実行委員会」の資料

- (1) リーフレット 「戦争と医学」－日本医学界の「15 年戦争」荷担の実態と責任
- (2) パネル集 「戦争と医学」－日本医学界の「15 年戦争」荷担の実態と責任
- (3) ブックレット 「戦争と医の倫理」－中・米・日の視点から

「戦争と医の倫理」の検証を進める会

(連絡先) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木 2-5-5 (新宿農協会館 6 階)

全国保険医団体連合会 内

TEL. 03-3375-5121 FAX. 03-3375-1862

e-mail tadashi-mri@doc-net.or.jp

URL <http://AVIC.doc-net.or.jp>